神戸市立医療センター中央市民病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院と研修連携施設である神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター、兵庫県立こども病院、岐阜県総合医療センター、あいち小児保健医療総合センター、京都大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、大阪市立総合医療センター、明石医療センター、公立豊岡病院、兵庫県災害医療センター、医仁会武田病院において専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する.麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

本研修プログラムでは，地域医療を中心とした連携施設での研修だけでなく専門研修基幹施設、大学病院、こども病院での高度、先進、特殊領域における医療研修も可能とすることを特徴とし，研修終了後は，兵庫県を中心とした関西圏での地域医療の担い手、あるいは広く日本国内での高度先進医療の推進者として希望する施設で就業が可能となる．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 主に**神戸市民病院機構（神戸市立医療センター中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター）**で研修を行う．内、最低1年間は中央市民病院で麻酔研修を行うが、機構間のローテーション比率は専攻医の希望に応じて調整する。
- 3年間の間に神戸市立医療センター中央市民病院において集中治療を少なくとも3ヶ月研修する．
- 3～4年目は専攻医のニーズに応じて神戸市民病院機構だけではなく、専門研修連携施設のいずれかでの研修を選択して行うことができる．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	神戸市民病院機構施設	神戸市民病院機構施設/他	神戸市民病院機構施設/集中治療研修/他	神戸市民病院機構施設、明石医療センター、武田病院、京都桂病院、京都医療センター、滋賀県立総合病院、千船病院、静岡市立病院、飯塚病院
B	神戸市民病院機構施設	神戸市民病院機構施設/他	神戸市民病院機構施設/集中治療研修/他	神戸市民病院機構施設、大阪市立総合医療センター、公立豊岡病院、災害医療センター、尼崎総合医療センター
C	神戸市民病院機構施設	神戸市民病院機構施設/他	神戸市民病院機構施設/集中治療研修/他	神戸市民病院機構施設 京都大学医学部附属病院 神戸大学医学部附属病院
D	神戸市民病院機構施設	神戸市民病院機構施設/他	神戸市民病院機構施設/集中治療研修/他	県立こども病院、あいち小児保健医療総合センター、岐阜県総合医療センター、大阪母子医療センター、沖縄南部医療センター、北野病院
E	神戸市民病院機構施設	神戸市民病院機構施設/他	神戸市民病院機構施設/集中治療研修/他	国立循環器病研究センター、小倉記念病院、倉敷中央病院、天理よろづ相談所病院

A：地域重点コース

B：救急集中治療重点コース

C：アカデミックコース

D：小児重点コース

E：循環器重点コース

その他、専攻医の希望に応じたローテーション表作成も考慮する.

週間予定表

神戸市立医療センター中央市民病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み	休み
当直		当直					

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

神戸市立医療センター中央市民病院

研修プログラム統括責任者：美馬　裕之

専門研修指導医：美馬　裕之（麻酔、集中治療）

山崎　和夫（麻酔、集中治療）

宮脇　郁子（麻酔、心臓血管麻酔）

下薗　崇宏（麻酔、集中治療）

柚木　一馬（麻酔、集中治療）

野住　雄策（麻酔、心臓血管麻酔）

桂　欣宏（麻酔・集中治療）

麻酔科認定病院番号：217

特徴：神戸市民病院機構の基幹病院として高度・先進医療に取り組むとともに救急救命センターとして24時間体制で1から3次まで広範にわたる救急患者に対応している。そのため心大血管手術、臓器移植手術、緊急手術など様々な状況で多種多彩な麻酔管理を経験できる。また、集中治療部を麻酔科が主体となって管理しているため大手術後や敗血症性ショック等の重症患者管理を研修することができる。

② 専門研修連携施設

神戸市立医療センター西市民病院

研修実施責任者：榎　泰二郎

専門研修指導医：榎　泰二郎（麻酔）

岡崎　俊（麻酔）

若松　拓彦（麻酔）
星　歩美（麻酔）

認定病院番号：　893

特徴：神戸市民病院機構に属し、神戸市西部の地域中核病院として心臓大血管手術、脳外科手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。また、神経ブロック症例を多く経験することができる。

<u>神戸市立西神戸医療センター</u>

研修実施責任者：堀川　由夫
専門研修指導医：　堀川　由夫
川瀬　太助
飯島　克博
専門医：　濱場　千夏
内山　福美

麻酔科認定病院番号：738

特徴：神戸市民病院機構に属し、神戸市西地域の地域中核病院として心臓大血管手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富に研修できる。また、集中治療部も麻酔科が主体となって管理しているため重症患者管理を経験することができる。

<u>兵庫県立こども病院</u>

研修実施責任者：香川　哲郎
専門研修指導医：香川　哲郎（小児麻酔）
高辻　小枝子（小児麻酔）
大西　広泰（小児麻酔）
宮本　義久（小児麻酔）
上嶋　江利（小児麻酔）
末田　彩（小児麻酔）
藤原　孝志（小児麻酔）
田中　康智（小児麻酔）
上野　真穂（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号　93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。
小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

兵庫県災害医療センター

研修実施責任者：井上　明彦

専門研修指導医：井上　明彦（麻酔、救急、集中治療）

島津　和久（麻酔、救急、集中治療）

認定病院番号　1666

特徴：高度救命救急センターの指定医療機関であり、ドクターカーによるプレホスピタル、初療、集中治療、病棟管理を転院まで一貫して対応し、手術症例の麻酔管理も実施。重症外傷の緊急手術が多く、外傷ショック症例に対する蘇生や手術室直入、Hybrid ERでの手術等、救命センターならではの手術麻酔症例が経験可能。

社会医療法人愛仁会明石医療センター

研修実施責任者：多田羅　康章

専門研修指導医：

岡本　健志（麻酔）

多田羅　康章（麻酔、集中治療）

藤島　佳世子（麻酔）

松尾　佳代子（麻酔、産科麻酔）

小阪　真之（麻酔、集中治療）

濱崎　豊（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）

山崎　翔太（麻酔、心臓血管麻酔）

米田　優美（麻酔）666

西　進介（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1166

特徴：兵庫県東播磨医療圏で急性期医療を行っている。全身麻酔に硬膜外麻酔や神経ブロックなどを併用した管理や脊髄クモ膜下麻酔を積極的に行い、区域麻酔の技術習得を目指します。また、心臓大血管外科症例を通して JB-POT ならびに米国周術期経食道心エコー資格の取得や、集中治療・産科麻酔（labor analgesia）領域の研修も可能です。

公立豊岡病院組合立豊岡病院

研修実施責任者：正田　丈裕

専門研修指導医：正田　丈裕（麻酔）

蔭山　成（麻酔）

田井　綾乃（麻酔）
小野　春菜（麻酔）
田中　崇嗣（麻酔）

認定病院番号：　434

特徴：ドクターヘリで救急患者を搬送して24時間体制で受け入れ，但馬地域唯一の総合病院として、京都府北部から鳥取県の一部まで含めた医療圏をカバーしている。外科系各科も充実しており、乳幼児から超高齢者まで幅広い年齢層の患者の麻酔管理を経験できる。救命救急センターや周産期医療センターも併設しているため、緊急手術症例の麻酔を数多く経験できる。

<u>神戸大学医学部附属病院</u>

施設責任者：小幡　典彦

専門研修指導医：

小幡　典彦（麻酔）
野村　有紀（麻酔、ペインクリニック）
大井　まゆ（麻酔、小児）
巻野　将平（麻酔、集中治療）
法華　真衣（麻酔、心臓血管）
末原　知美（麻酔）
牛尾　将洋（麻酔、集中治療）
上野　喬平（麻酔、ペインクリニック）
西村　太一（麻酔、集中治療）
岡田　卓也（麻酔、心臓血管）
藤本　大地（麻酔、集中治療）
武部　佐和子（麻酔、心臓血管）
吉田　卓矢（麻酔）

専門医：

岡田　有理（麻酔）
白川　尚隆（麻酔）
杉野　太亮（麻酔）
坪井　ちづ（麻酔）
西原　侑紀（麻酔）
田中　明子（麻酔）
光井　誠子（麻酔）
阿瀬井　宏佑（麻酔）

中村　友季子（麻酔）
原田　みどり（麻酔）
中山　莉子（麻酔）
原　翔平（麻酔）
井関　将彦（麻酔）
中井　愛理（麻酔）
宮崎　純志（麻酔、集中治療）
森本　優佳子（麻酔）
南　綾乃（麻酔）
森　梓（麻酔）
志賀　萌（麻酔）
正田　康一郎（麻酔）
上村　圭広（麻酔）
早田　宜史（麻酔）
八代　和也（麻酔）

麻酔科認定病院番号：29

特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。また、集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である。

<u>兵庫県立尼崎総合医療センター</u>

研修実施責任者：田中　具治

専門研修指導医：田中　具治（麻酔、集中治療）
尾田　聖子（麻酔）
宮本　知苗（麻酔）
杉山　卓史（麻酔）
山長　修（麻酔、集中治療）
小川　達彦（麻酔、集中治療）
谷上　祥世（麻酔）
平山　優（麻酔）
山﨑　倫子（麻酔）
播本　尚嗣（麻酔）

専門医：　山部　竜馬（麻酔）
花井　香穂（麻酔）

認定病院番号：　698

特徴：平成 27 年7月に旧・兵庫県立尼崎病院が改名・新築移転し、阪神地域の総合的な基幹病院として高度急性期・高度専門・先進医療を行っている。
救急救命センター・小児救急救命センターと総合周産期母子医療センターを有し、小児医療・周産期医療・救急医療が充実しており、小児の麻酔症例と帝王切開術の麻酔症例も豊富（令和 7 年度の麻酔症例数：6 歳未満の小児 458 例、帝王切開術 322 例）。
臓器移植手術以外の様々な手術の麻酔管理が経験可能であり、特に先天性心疾患患者の心臓血管手術と胸部外科手術の麻酔症例が豊富であることも特徴。
集中治療部門や救急救命センターでの専門研修も可能。

<u>大阪市立総合医療センター</u>

研修プログラム統括責任者：山田　徳洪

専門研修指導医：

山田　徳洪（麻酔）
池田　慈子（麻酔）
嵐　大輔（麻酔）
上田　真美（麻酔）
岡本　なおみ（麻酔）
小林　晶子（麻酔）
嶋津　和宏（麻酔、集中治療）
四宮　沙里（麻酔、集中治療）
片岡　恵里佳（麻酔）
藤間　凡未（麻酔）
中谷　誠二（麻酔）
中新　恭平（集中治療）

認定病院番号：686

地域基幹病院、大学附属病院と連携し、麻酔診療と集中治療を組み合わせた研修を提供し周術期全般を見渡せる高水準な麻酔科専門医を育成します。

<u>社会医療法人愛仁会千船病院</u>

研修実施責任者：角　千里

専門研修指導医：

角　千里（産科麻酔）
星野　和夫（麻酔）
嘉山　邦仁（麻酔）
大山　泰幸（麻酔）
大嶋　圭一（麻酔）

平塚　剛（麻酔）
菅野　睦（麻酔）
渡邉　真理子（麻酔）
戸尾　まゆみ（麻酔）

麻酔科認定病院番号：770
特徴：初期研修医を受け入れる初期研修医を受け入れる308床の地域の総合病院ですので、大病院では経験しにくいcommon　diseaseの待機手術や骨折や急性腹症などの緊急手術を幅広く行なっており、麻酔科医としての地力を鍛えることができます。2025年度麻酔科管理件数は4,473件/年、うち全身麻酔は2,233件/年でした。地域周産期母子医療センター、MFICU（6床）、NICU（15床）、ICU（4床）等を備え、24時間母体搬送に対応しています。分娩件数は2,600件/年と大阪府随一ですので、一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（667件/年）や無痛分娩（1,100件/年）等の産科麻酔を経験することができます。無痛分娩は麻酔科医が24時間対応し、カテーテル入れたら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています。6ヶ月以上の期間でこれらの産科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています。また、減量・糖尿病外科が高度肥満症麻酔の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。

<u>公益財団法人　田附興風会医学研究所　北野病院</u>
研修プログラム統括責任者：加藤　茂久
専門研修指導医：加藤　茂久（麻酔）
足立　健彦（麻酔、集中治療、無痛分娩）
宮崎　嘉也（集中治療）
黒嵜　明子（小児麻酔）
原　朋子　（麻酔）
前川　俊　（心臓血管麻酔、集中治療）
柚木　圭子（麻酔）
直井　紀子（麻酔）
高田　祥子（麻酔）
村田　裕　（麻酔）
至田　雄介（心臓血管麻酔、集中治療）
専門医：　成田　葉月（麻酔）
中辻　史織（麻酔）
松山　裕敬（麻酔）

認定病院番号　65

特徴：地域医療支援病院。大阪市北区で中心的な役割を果たす病院である。麻酔科管理で年間約4300件の非常に多彩な手術を行っており、心臓血管外科、小児外科を含むほぼ全ての領域の手術麻酔を14名の専門医の下で余裕を持って研修することができる。2023年度に手術室が4室増えて計15室となり、西日本トップクラスの床面積を誇るハイブリッド手術室、心臓外科専用手術室が稼働し、TAVI手術も始まった。また2023年度より無痛分娩も開始し徐々に適応を拡大しつつある。

また専攻医の学会発表や院外研修を科として積極的にサポートしており機会は豊富である。日本集中治療医学会専門医研修認定施設、心臓血管麻酔専門医認定施設でもあるので、十分な集中治療研修、心臓血管麻酔研修を行うことができる。

<u>国立循環器病研究センター</u>

研修実施責任者：　前田琢磨

専門研修指導医：　金澤裕子
前田琢磨
南　公人
下川　亮
月永　晶人
森永　將裕
三浦　真之介

麻酔科病院認定番号　168

センター手術室は 12 室であり、そのうち 4 室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多かった印象です。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月 1 回程度あります。麻酔科医はスタッフ 8 名レジデント 18 名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医 2 名が当直、オンコール 1 名ですべての緊急症に対応しています。

<u>大阪母子医療センター</u>

研修実施責任者：竹下　淳（小児・産科麻酔）

専門研修指導医：竹下　淳（小児・産科麻酔）
川村　篤（小児集中治療）
濱場　啓史（小児・産科麻酔）
増茂　薫（小児・産科麻酔）
阪上　愛（小児・産科麻酔）

西垣　厚（小児集中治療）
専門医：　征矢　尚美　（小児・産科麻酔）
楽畑　綾香　（小児・産科麻酔）
佐伯　淳人　（小児・産科麻酔）
井川　大輝　（小児・産科麻酔）

麻酔科病院認定番号 260
特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍（小児外科）、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤（脳神経外科）、複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科）、口唇口蓋裂（口腔外科）、小耳症、母斑、多合指（趾）症（形成外科）、分娩麻痺、骨欠損、多合指（趾）症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症（泌尿器科）、斜視、未熟児網膜症（眼科）、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科）、白血病、悪性腫瘍（血液・腫瘍科）、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRI などの検査の麻酔・鎮静も、麻酔科医が行っている。

医仁会武田総合病院
研修実施責任者：瀬川　一
専門研修指導医：瀬川　一（麻酔、集中治療）
矢澤　智子（麻酔）
中村　久美（麻酔）

認定病院番号：648
特徴：地域に密着した急性期総合病院である。ほぼすべての外科系診療科を有しているため、各科の予定および緊急手術の麻酔及び集中治療室における患者管理を学ぶことが出来る。

京都大学医学部附属病院
研修実施責任者：江木　盛時
専門研修指導医：江木　盛時（麻酔，集中治療）
溝田　敏幸（麻酔，集中治療）
甲斐　慎一（麻酔，集中治療）
川本　修司（麻酔，集中治療，ペインクリニック，心臓血管麻酔）
瀬尾　英哉（麻酔，集中治療）
加藤　果林（麻酔，ペインクリニック）
木村　聡（麻酔，集中治療）

日笠　友起子（麻酔，集中治療）
宮尾　真理子（麻酔）
辰巳　健一郎（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
松川　志乃（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
橋本　一哉（麻酔，集中治療）
武田　親宗（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
廣津　聡子（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
池浦　麻紀子（麻酔）
木村　良平（麻酔，集中治療）
山田　瑠美子（麻酔，心臓血管麻酔）
櫻井　洸太朗（麻酔）
三好　健太郎（麻酔）

専門医　　：田口　聡久（麻酔，集中治療）
楠戸　絵梨子（麻酔）
小堀　鮎美（麻酔）
南迫　一請（麻酔，集中治療）
生野　智美（麻酔）
髙橋　周平（麻酔，集中治療）
島田　覚生（麻酔，集中治療）

認定病院番号：４

特徴：すべての外科系診療科がそろっており、豊富な症例を通じて幅広い麻酔管理を経験することが可能であり、日常的な手術から高度先進医療まで、バランスよく実践力を養える環境が整っています。肝移植、肺移植、人工心臓植込み手術、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）、覚醒下開頭術といった、他施設では経験が難しい高度かつ専門性の高い手術の麻酔管理を経験豊富な指導医のもとで体系的に学ぶことで、様々な合併症を持った患者さんの麻酔管理における確かな臨床力と判断力を身につけることができます。

<u>京都医療センター</u>

研修プログラム統括責任者：東別府直紀

専門研修指導医：東別府直紀（麻酔・集中治療）
杉本 亮大（麻酔）
宮井 善三（麻酔）
森 悠（麻酔）
水津 悠（麻酔・集中治療）
木村 詩織（麻酔・集中治療）

専門医：　　鈴木 陽世（麻酔）
認定病院番号：1280
特徴：京都府南部の中核医療施設としてほぼすべての外科系各科が揃い、開心術、経カテーテル大動脈弁留置術など豊富な手術症例を誇る。また救命救急センターでは積極的に救急患者を受け入れており、緊急手術も多く救急・集中治療領域でも充実した研修が可能である。またオンデマンドの無痛分娩を行っており、夜間の無痛分娩などにも携わることができる。

<u>京都桂病院</u>
研修実施責任者　小山　智弘
専門研修指導医　小山　智弘（麻酔、心臓血管麻酔）
上田　裕介（麻酔）
住谷　絵未里（麻酔）
臼井　理紗（麻酔）
専門医：　三宅　悠介（麻酔）
認定病院番号：　975
特徴：京都市西部から乙訓地域、京都中部に位置し、約70万人の医療圏を担う基幹病院である。外科系のほぼすべての診療科を備え、多様な手術麻酔を経験できる。日常診療を通じて、麻酔専門医に必要な知識と技術を体系的に習得可能である。消化器外科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器外科ではロボット支援手術に対応している。心臓血管麻酔では、専門医およびJB-POT認定医による指導体制を整えている。

<u>天理よろづ相談所病院</u>
研修実施責任者：石井久成
専門研修指導医：石井久成（一般麻酔、心臓血管麻酔）
中平淳子（麻酔，医療安全）
山口直城（心臓血管麻酔，集中治療）
相山佑樹（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号　83
特徴：　地域の総合病院として、多種多様な麻酔症例を経験できます。2014年に手術室が新築され麻酔科的にとても充実した働きやすい環境が整っています。心臓血管外科手術の麻酔が多種にわたり経験できます。TEEは麻酔科医と検査技師とが相補的に詳細な所見を取ります。TAVIは、ほぼ全例MACで麻酔科が管理しています。ハートチームの結束も固く、互いを尊重し合いながら切磋琢磨しています。かつて当院で小児期に心臓手術を行った患者、

いわゆるAdult Congenital症例が増加しつつあります。複雑な循環動態の患者の、心臓・非心臓手術のチャレンジングな麻酔を施行しています。

<u>滋賀県立総合病院</u>

研修実施責任者：疋田　訓子
専門研修指導医：疋田　訓子（麻酔）
伊藤　有紀（小児麻酔）
田辺　寛子（麻酔）
中尾　隆宏（麻酔）
安原　玄人（麻酔）
武井　由衣（麻酔）

認定病院番号：347
特徴：滋賀県における都道府県がん診療連携拠点病院であるため、外科系ほぼ全ての診療科が揃う。隣接する滋賀県立小児保健センターと合併し、小児から超高齢者まで幅広い症例や多岐にわたる手術を学ぶことができる．全身麻酔だけでなく脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔、神経ブロックなどを学ぶとともに、集中治療部やペインクリニック、緩和ケアなどサブスペシャリティ部門も経験できる。

<u>倉敷中央病院</u>
研修実施責任者：新庄　泰孝（麻酔科部長）
専門研修指導医：新庄　泰孝（麻酔、集中治療）
大竹　由香（麻酔、緩和）
入江　洋正（麻酔、集中治療）
勝田　哲史（麻酔、集中治療）
池田　智子（麻酔、集中治療）
岡田　朋子（麻酔）
妹尾　浩史（麻酔）
久野村　仁嗣（麻酔）
専門医：　佐々木　敬則（麻酔）

麻酔科認定病院番号：113
特徴：倉敷中央病院は1172床を有する大規模総合病院である。2025年度の麻酔科管理症例数は3941件（全手術件数は10942件/年）であった。手術室30室（アイセンター、ハイブリッド手術室を含む）を有し、小児先天性心疾患手術、臓器移植手術以外の豊富な手術実

績を有する。病院も高度先進医療を志向し、2019年5月に予防医療プラザも完成した。このような医療環境下、常に新しい知識と技術を習得することが可能である。専攻医初年度半年研修後から心臓麻酔研修を開始し、専攻医3年目からは術前外来を経験させている。

<u>岐阜県総合医療センター</u>

研修実施責任者：山本　拓巳

専門研修指導医：山本　拓巳（麻酔，集中治療，小児麻酔）
増江　達彦（麻酔，心臓血管麻酔，小児麻酔，救急医学）
飯田　美紀（麻酔，心臓血管麻酔，小児麻酔）
竹中　元康（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
榊原　いづみ（麻酔，産科麻酔）
山下　実華（麻酔）
横田　愛（麻酔，小児麻酔，ペインクリニック）
宮本　真紀（麻酔，産科麻酔，ペインクリニック）
上田　恭平（麻酔）
浅野　尊比古（麻酔，心臓血管麻酔）

専門医：森脇　邦明（麻酔，心臓血管麻酔）
鈴木　悠介（麻酔，集中治療）
大野　依里香（麻酔）

認定病院番号：　349

特徴：　地域医療支援病院・周産期母子医療センター・小児心臓手術実施施設
岐阜県の基幹病院として新生児・小児から成人までの高度・先進医療を提
供している.心臓血管センターでは新生児から高齢者までのすべての心臓
手術とカテーテル治療に対応しているため心臓麻酔管理のオールラウンド
な研修が可能である.また、救命救急センターであることから緊急手術の
麻酔管理も多数経験することができる.

<u>あいち小児保健医療総合センター</u>

研修実施責任者：宮津　光範

専門研修指導医：宮津　光範（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）
山口由紀子（小児麻酔、産科麻酔）
加古　裕美（小児麻酔）
渡邉　文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー）
青木　智史（小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理）
北村　佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）
一柳　彰吾（小児麻酔、QI）

川津　佑太（小児麻酔、シミュレーション教育）
専門医：中野　晃輔（小児麻酔、心臓麻酔）
森下　博隆（小児麻酔）
澤田　健　（小児麻酔）
手﨑　貴友（小児麻酔）
麻酔科認定病院番号：1472

特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。

＜当センターの強み＞
A．概要
小児病院出身のエキスパートから直接指導が受けられる。指導医によるバラつきを極力減らすために制定された「標準手順書」に従って丁寧な指導を行う。標準手順書は最新のエビデンスに基づき毎年アップデートされている。急激に進む少子化の中にあっても麻酔件数は例年並を維持している。小児麻酔技術の習熟に最適な短時間手術が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。MRI・CTなどの手術室外鎮静も麻酔科医が行っている。希望者は分娩時鎮痛（無痛分娩）に関与することもできる。
B．独自の教育システム
高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。英語の教科書を使った症例ベースの勉強会をフェロー主体で行っている。スタッフはアドバイザーとして参加する。
C．小児心臓麻酔
新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が増加中であり、症例数は東海北陸地方で最多である。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは3ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。3Dコンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に3台の小児用EXCORを保有しており、心臓移植待機目的のLVAD管理を積極的に実施している。
D．学術活動
臨床研究や論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。論文執筆時にはスタッフが責任をもってサポートするが、執筆は強制されない。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「PhD；博士（医学）」の学位取得が可能である。その他の学位取得実績としては、「MPH；公衆衛生学修士（専門職）」、「MBA；修士（経営学）」などがある。大学院授業の履修に支障がないように配慮された柔軟な勤務が可能である。

E. PICU
麻酔科はPICUの運営には直接関与していないが、希望者はPICU研修が可能である。東海北陸地方最多である16床のPICUは、麻酔科出身者を含む小児集中治療科専属医師らによりclosed運営されている。術後だけでなく救急経由の入室も多く、小児ECMOは全国トップクラスの症例数と成績を誇る。
F. 小児救命救急センター
ドクターヘリ搬送およびドクターデリバリー（当センター医師をヘリで派遣）が増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く小児重症患者を集めている。

静岡市立静岡病院
研修実施責任者：玉里 順子
専門研修指導医：玉里 順子（麻酔）
佐久間 潮里（麻酔）
寺田 尚弘（麻酔）
美根 智子（麻酔）
津久井 亮太（麻酔）
星野 駿（麻酔）

認定病院番号：487
特徴：
地域の救急を担う中核病院・ハートセンターとして緊急手術も多い病院です。特に心臓血管外科症例、循環器内科症例、循環器疾患を合併した非心臓手術の重症症例、呼吸器外科症例が多く、充実した指導体制の下で循環/呼吸管理の基本を徹底的に学べます。各麻酔の基本のみならず心エコーや体表のエコー神経ブロック技術等に関しては独自の教育プログラムを有しており、シミュレーションとベッドサイドの両方のトレーニングに加えて定期的な講義や試験があるため、短期間で専門的な知識と手技を確実に獲得することができます。

小倉記念病院
研修実施責任者：角本 眞一
専門研修指導医：角本 眞一（麻酔、集中治療）
中島 研 （救急）
宮脇 宏 （麻酔、集中治療）
近藤 香 （麻酔、集中治療）
松田 憲昌（麻酔、集中治療）
栗林 淳也（麻酔、集中治療）
小林 芳枝（麻酔、集中治療）

生津　綾乃（麻酔、集中治療）
柳　　明男（麻酔、集中治療）
釜鳴　紗桐（麻酔、集中治療）
彼末　行世（麻酔、集中治療）

研修委員会認定病院：52
特徴：心臓大血管手術のみならず、TAVR、Mitral clip などの低侵襲手術にも力を入れている。循環器疾患を合併した非心臓手術の麻酔症例も数多く経験できる．集中治療にも力を入れている。

株式会社麻生　飯塚病院

プログラム統括責任者：尾崎 実展
専門研修指導医：尾崎　実展（麻酔）
内藤　智孝　（麻酔）
田平　暢恵（麻酔）
鵜島　雅子（麻酔）
濵井　優輔（麻酔）
満田　真吾　（麻酔）
認定病院番号：　539
特徴：当院は救命救急センター、福岡県総合周産期母子医療センターに認定されており麻酔科は超未熟児を除くほとんどすべての緊急手術に対応している。
また地域がん診療連携拠点病院であり、幅広い悪性腫瘍の手術を行っているが肝胆膵手術、肺手術の症例数が特に豊富である。
心身合併症センターを運営しており、精神疾患で周術期管理困難と思われる近隣患者の受け入れも行っている。
開心術、TAVI、大動脈手術（開胸・開腹およびステント留置）、重症下肢虚血血行再建など心臓血管外科領域での幅広い手術を行っており、心臓血管麻酔専門医認定施設である。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

研修実施責任者：川端徹也
専門研修指導医：川端徹也（麻酔、小児麻酔）
比嘉久栄（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
杉浦（兼城）真帆（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
伊敷聖子（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
野中信一郎（麻酔、小児麻酔、区域麻酔、心臓血管麻酔）

北原武尊（麻酔、小児麻酔）
松田龍太（麻酔、小児麻酔、区域麻酔）

1986年 研修委員会認定病院取得（認定病院番号：409）
特徴：地域医療支援病院、小児麻酔専門施設、心臓血管麻酔認定施設
特徴：地域医療支援病院、小児麻酔専門施設、心臓血管麻酔認定施設
新生児から高齢者まで、麻酔関連の専門資格取得に必要な経験症例を全て網羅
福利厚生が充実し、常夏の島で公私共に充実した研修が行える環境です。

---

1. 専攻医の採用と問い合わせ先

（ア） 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2019 年 6 月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，神戸市立医療センター中央市民病院website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

神戸市立医療センター中央市民病院　麻酔科　美馬裕之
兵庫県神戸市中央区港島南町2−1−1
TEL 078-302-4321
E-mail kbmima@gmail.com
Website http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident/medical

2. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

（ア）専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

3．専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1）臨床現場での学習，2）臨床現場を離れた学習，3）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

4．専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修2年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

5．専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修4年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

6．専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

7．専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

8．専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プ゜ロク・ラムを移動することか・て・きる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

9．地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての西市民病院，西神戸医療センター病院，公立豊岡病院、岐阜県総合医療センターなど幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中

小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．